

第5回境港市みんなでまちづくり推進会議録

日時：令和元年12月7日（土）13：30～15：30

場所：保健相談センター 講堂

日程

1. 開 会
2. 会長挨拶・事前説明
3. アイスブレイク
4. ワールドカフェ
5. 総評
6. 閉 会

出席者（敬称略）

（委員）

渡部敏樹 遠藤恵子 松本幸永 徳尾 勝 松田真二
遠藤 緑 門脇京子 糸川 諒 足立 勲

（アドバイザー）

每熊浩一（島根大学法文学部教授）

（大学生）

島根大学法文学部 学生 8名（うち委員1名含む）

（移住者）

9名

（事務局）

築谷俊三（総務部長） 沼倉加奈子（地域振興課長）

木村 哲（地域振興課企画係長） 渡部大樹（地域振興課企画係主任）

（傍聴者）

なし

欠席者（敬称略）

松本信子 岩本和貴

<開会>

13:30 会長挨拶・事前説明

(事務局)

定刻となりましたので、ただ今から令和元年度第5回境港市みんなでまちづくり推進会議（移住者とのワークショップ）を開会いたします。本日は貴重な土曜日のお昼に、ご出席をいただき誠にありがとうございます。私は本推進会議事務局の地域振興課の渡部と申します。よろしくお願いいたします。

まずはスタッフを紹介いたします。総務部長です（総務部長の築谷です）。地域振興課長です（地域振興課長の沼倉です）、地域振興課の木村です（木村です、よろしくお願いいたします）。

また、本日は、本推進会議のアドバイザーでいらっしゃいます島根大学法文学部教授 毎熊浩一（まいぐまこういち）先生に来てもらっております（毎熊です、よろしくお願いいたします）。

それでは、まずは本推進会議の会長にご挨拶をいただきます。松本会長よろしくお願いいたします。

(会長)

皆さん、こんにちは。みんなでまちづくり推進会議会長の松本です。本日は、お忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

私たち「みんなでまちづくり推進会議」では「U・Iターンをしたくなるまちづくり」を今期の取り組みテーマとして協議を進めております。この取り組みテーマについては、様々な方々から直接声を聞き、最終的に私どもが報告書としてまとめ、市長へ提出するものです。これまでの市内の高校生とワークショップをするなど意見交換を重ねてまいりました。

さて、本日は、ご案内のとおり、「U・Iターンをしたくなるまちづくり」について、お集まりの皆さんとワークショップをしたいと思っております。開催にあたりましては、アドバイザーの毎熊浩一先生には、ご助言を賜り誠にありがとうございました。

本日お越しいただいているメンバーは、私を含めたみんなでまちづくり推進会議委員9名、アドバイザーの毎熊浩一先生、移住者の方々9名、そして、島根大学法文学部の学生さん8名（うち1名は委員）であります。

移住者の方々には、Iターンの方もUターンの方もいらっしゃいます。それぞれ異なる事情のもと、境港にいらっしゃったかと思っております。どうか皆さん、あまり固くならず、皆さんの様々な経験から境港というまちについて、お話・ご意見をいただければと思います。

それでは、本日はよろしくお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。続いて、本日の会について説明いたします。

お配りした資料の中にタイムテーブルがあります。このとおり、進行していきますが、主に行うのはワールドカフェというワークショップです。ワールドカフェについては、毎熊アドバイザーに進行していただき、また直前に詳しくお話しいただきます。

終了時刻は3時半を予定しています。2時間という長丁場ですがよろしくお願ひします。

なお、参考資料としまして、各テーブルに鳥取県ふるさと定住機構が作成しております鳥取県内への移住情報をまとめた冊子と、移住者の方のインタビューが掲載された冊子を置いております。移住情報をまとめた黄色い冊子に付箋を貼ったページが境港市のページになります。また、過去に行った高校生とのワールドカフェの内容をまとめたものも配布しております。簡単にご説明しますと、昨年度は、高校生とワールドカフェをして、境港市に対するポジティブな意見・ネガティブな意見、さまざまな意見を聞くことができました。ただ、その際は意見を聞くことに重きを置いていたため、今度は、委員からも「こういう見方もあるけどどう？」という大人の異見を話す場を作りました。それが2つ目の高校生との模擬審査会です。雑多に資料がありますが、全てに目を通す必要はございませんので、あくまで参考ということでご承知いただければと思います。

簡単ではありますが説明は以上です。このあとの進行はアドバイザーの毎熊先生にお願いしたいと思います。

13:40 アイスブレイク

(アドバイザー)

改めまして、島大の毎熊と申します。よろしくお願ひします。

先ほど、会長からありました通り、今日の基本的なねらいは、「移住者の方」というのも堅苦しいですが、Uターンされた方、Iターンされた方のお話をお聞きしたいというのが一番の目的でして、この推進会議が高校生との話なんかをまとめて、最終的に市長に提言、あるいは報告書みたいな形で、「境港もこうやってU・Iターンを推進していったらどうか」みたいな提案の材料にできたらということで、生の声を聞きたいというのが今日のねらいです。そのためにこのあとワールドカフェという最近よく行われるやり方で、皆さんの率直な意見を聞きたいと思います。その説明はまたあとで。

まずは、雰囲気柔らかくするためにも自己紹介を最初にしたいと思います。皆さんせっかく座ってもらってますけど、広がっていただいていいですか。円か四角か。その際は、隣は知らない人同士にしてください。大学生は大学生横同士はだめ。委員さんも横同士はだめ。よろしいですか。20分アイスブレイクありますけど、1人1分喋られると超えまますからね。大体30秒くらいで。話すのは、「どこから」「何をきっかけに」で、「今これをしてます」とこれが基本です。プラス、「今年のニュースといえばこれだろ」というのを一言言っていただいて名前を言ってもらおうという。では僕から。

※以下、参加者全員が自己紹介

それでは、皆さんありがとうございました。僕が期待したテンポではありませんでしたが。席にお戻りください。

これで皆さん、「この人の話もう少し聞いてみたいな」ということも出てきたんじゃないかと思いますが、今日はそういう機会もありますので。では、ワールドカフェのやり方の説明に移りたいと思います。

お手元の資料にあるように3つテーマがあります。まずは、移住者の方々に何しに境港に来たのか、というところを率直お話いただきたいなと思います。それで、一緒になった人たちから色々質問をしていただけたら温まっていくんじゃないかと思います。

2つ目のテーマは「境港の良いところ・悪いところ」。例えば、来る前はこうだったとか、来てからこういうところに気づいた、とか。良い点、悪い点あると思いますけど、率直にお話いただきたいと思います。

3つ目のテーマは「境港市をより良いまちにするには」もっと具体的に言うと「U・Iターンを進めるには」こんなことあったら良かったなあという話を聞き出せたらと思います。

それで、3つテーマがあるにも関わらず、6つテーブルがあります。テーマの1つにつき、テーブルが2つあります。1時間ずっと同じテーマでやっていただくわけではなく、20分おきに移動していただきます。すべてのテーマに行かれるようにお願いします。中には、2人ずつ大学生と委員さんがホストという進行役にいらっしゃいます。メンバーが変わりますので、その前に話された内容は分からないので、ホストの方が繋ぎ役をやっているのと模造紙がありますので、そこにキーワードで構いませんので、メモを残していただくと助かります。例えば、就職で来たのなら、就職で来たということを書いておけば、次の人にも分かりますよね。そういう足跡を模造紙に残していただければと思います。基本的にはホストの方にしていただければと思いますが、皆さんも気になることがあればメモを残していただければと思います。

で、特に発表という時間は設けておりませんので。ただ非常に時間が限られておりますので、1人の時間は手短にお願いしたいと思います。食べたり、飲んだり、音楽も流れますので、よろしくお願いします。では、1回目始めます。

※20分×3セット

では、時間ですのでこれまでとします。ここからは休憩も兼ねて、各テーブルの模造紙をぐるぐる見る時間にしたいと思います。その際に、小さい付箋を配っておりますので、「いいね」付箋と言っていますが、面白い意見があれば貼って行ってください。では、お疲れ様でした。

※休憩

皆さんどうもお疲れ様でした。少しだけ振り返りをしたいと思います。ワールドカフェをやっていただいて分かったかと思いますが、特に具体的に案を詰めて、「こういうことやれ！」的なことではありませんので。いわば雑談になりますけど、その中から、とりわけ委員さんには「こういうことやったら良いなあ」という気づきが生まれていると良いなあと思います。そして、また皆さんのご意見というのはまとめて咀嚼して、最終的には本推進会議の提案となります。で、せっかくですので今日は意見交換を通じてこんなことを感

じたとか、こんなことをやれば良いじゃないかというのがあれば、一言いただきたいと思
いますけど。できれば移住者の方に。まず、自分からという方はいませんか。僕はなるほ
どなあと思ったのは自衛隊の方の意見。近くにあるけど意識してなかったなあと
思って。いわば地域資源で、十分に使えてなかったなあと感じがしました。です
ので、お二方どちらか、ではなくてどちらともお話いただけたらと思います。

(移住者)

ありがとうございます。日頃思っていた「もっとこうしたら活気がある街にできるの
になあ」と中にため込んでいたものが発散できたのが良かったです。

(アドバイザー)

どこらへんが発散できました？

(移住者)

自衛隊使ったらいい。人は定期的に入ってきて、しかも、若いので、そこを捕まえてお
金をたくさん使ってもらったり、ファミリーを作ってもらったり、家を建ててもら
ったりすれば、すごくチャンス。自衛隊と海上保安庁に全然なので。私は航空自衛隊
でしたが、自衛隊の中で美保基地は行きたくないランキングかなり上位です。

(アドバイザー)

それは寂しいということ？

(移住者)

そうです。「基地の外なんもないよ〜」って。美保基地配属というのを聞いただけで「え
〜！」って。そこを「美保基地って楽しいから行きたい！」っていう風にできれば
良いと思います。ですので、自衛隊を活用したらいいじゃん！って思います。

(アドバイザー)

なるほど、ありがとうございます。では、もうお一方。

(移住者)

確かに、美保基地に来た若い子に話を聞くと、「えらいところに来てしまった」と。「基
地出た途端、何にもないし、何か臭うし」まあ、臭いはしょうがないんですけど。電
車のアクセスも悪いし、給料が入っても使うところがないからお金が貯まるし。お
金が貯まるのは良いことなんですけど。

(アドバイザー)

使わせなきゃいけないですね。ちなみに、ランキング上位はどこなのでしょう。

(移住者)

千歳・那覇・小松は人気です。千歳と那覇にいましたがゲートに行ったら、タクシーがいますので、すぐ飲み屋街に行けます。それでお金がなかったんですけど。官舎に入って家賃や光熱費がかからないはずなのに給料が貯まらなくて、千歳にしても空港の中に映画館があったり、すごく活性化していて、飲み屋街や温泉も活気がありますけど、美保基地は何もないです。ですので、あんまり飲み屋があるのもどうかと思いますけど、もう少し若い子向けの、ストレス発散のできるお店があっても良いかなと思います。

(アドバイザー)

ありがとうございました。那覇も千歳もアドバイザーとして視察に行きますので、頼んでください。ほかにいかがでしょうか。

(移住者)

いつも市民の声提案箱という市役所ホームページに投稿しているんです。あえてここで言うこともないんですけど、しいて言うと、「何にもない」というのが一つの魅力なんです。ありすぎるところはものすごいストレスなんです。名古屋でも東京でも大阪でも、みんなストレスを抱えて生きていて、子どももストレスを抱えています。アレルギー疾患を抱えている子どももすごいです。そういう子どもを夏休みだけでも体育館で合宿させろって議員の懇談会でも言ってやったんですよ。まあ、議員がそれ面白いから議会でも揉んでみるって言うてもらっています。まあ、どうなるかは分かりませんが。だから、そういう子たちを家族ごと移住させてあげると、楽に暮らせるよと。身体は楽だよと。逆に、今のところそれしかない。名古屋の知り合いにもアピールするものが何かないかって考えるけど、水と空気くらいしか思いつかない。水の良さはある意味衝撃です。こっちに帰ってきて水道水を出して飲むと、これは井戸水じゃないのかと、思うような味がしますから。それで名古屋に行って、水を飲むと「なんだこの薬臭いのは」と。要は塩素の量は何人分を満たすのかの違いが出ているわけです。なので、住んでいるだけじゃ分からないけど、行ったり来たりすると分かってくる。だから、都会にないものをアピールしていけば何かしら形になって現れる。しなければ単なる田舎で終わってしまうわけです。いかに都会の人間に境港市という田舎をアピールできるか、それがポイントですね。

(アドバイザー)

ありがとうございました。ほかに気になった方がおられて、ドッグカフェを作られたという方、どうですか。

(移住者)

自分はドッグカフェがなかったんで、作ったんですけど、境港市民の性格上なのか、なかなか来てもらえなくて、慣れてきたところに口コミでちょろちょろという具合で、いま増えてきているところです。僕はIターンで来ましたが、Uターンは親の地盤があるから帰ってきてても住みやすいと思うんです。Iターンは全く知らないところに来るんで、住む土地や家はあっても生活するために働かないといけないのに、働き口がなかったら、だめですよ。米子・松江で働き口があるなら、当然働く場所に近いところに住んで、境港は選ばれない。ただ自営なら関係ない。何人か自営をされている方と話しましたが、夢を持っている方はいる。競合もない中で、そういう方々がいるということは夢を叶えるなら持ってこいなのかなとも思います。

(アドバイザー)

ありがとうございます。お隣の方はどうですか。

(移住者)

私は境港市の地域おこし協力隊として移住してきました。今は自分で商売をしているわけではありませんが、今後、こちらで勝負をしていきたいと思っているところもあって、自分もIターンで来ていて、同じくIターンでドッグカフェを経営されている方と出会えたのが一番の収穫でした。こういう場所を設けていただいて、目的とは違うかもしれませんが、今日ここに来て良かったなあと思います。

(アドバイザー)

ありがとうございました。実は、目的でした、陰の。移住者の方々同士のネットワークでもできれば良いなあ、余計なことを狙ってました。

もう時間ですかね。あと1人くらい、どなたか。聞かれた側で、いかがですか。

(委員)

私は、境港は住みやすい良いところだなと思って住んではいるんですけど、ただIターンの方やUターンの方が少ないというのも知ってはいますし、水木しげるロードで観光客の方は来るけど、それがお金に繋がってないというのには気づいていたので、実際に移住された方の意見、やっぱり「なぜ来たのか」というところから現実的な問題をクリアしたり、問題はあるけど来てくださったという方の生の意見は大事だと思っていて、それプラス島根大学の大学生という若い方が思っていることを一緒に聞いたというのはすごく良い経験でした。その声を無駄にしないように1つでも2つでも取り入れることができればと思いますし、委員の方にも「何かしよう！」というやる気のある方が多いので、一緒に何かできれば良いのかなと感じました。

(アドバイザー)

ありがとうございました。ものすごく思いがある方が集まっているので、こういうことがもう少し広がっていくと良いですね。大学生と僕とどれだけ役に立つかわかりませんが、できるだけお力になればと思いますので。皆さんの方でもご協力いただければと思います。ありがとうございました。

(事務局)

毎熊先生、ありがとうございました。それでは、最後に事務局を代表しまして、境港市総務部長から一言申し上げます。

(総務部長)

皆さん、長時間に渡りお疲れ様でした。推進会議委員の皆さん、毎熊先生をはじめとする島根大学の皆さん、移住者として参加してくださった皆さん、貴重なお話ありがとうございました。この和やかな時間の中で自由闊達な意見交換があったと受け止めています。最後の好評のところでも良い意見がありましたが、これからの行政にどのように取り入れていくのか、それから、皆さんの関係づくりがどのように進んでいくのか、何かしらお手伝いできたかなと思っております。本日は大変長らくありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。では、最後に、皆さんはお配りしたアンケートにご記入をお願いします。出口のところで、そちらを提出してから、お帰りいただきますようお願いいたします。なお、この会場は4時までこのままの状態としますので、話したりないという方はこのまま話していただいて結構です。

以上で、第5回みんなでまちづくり推進会議・移住者とのワークショップを終了します。皆さん、長時間に渡り、ありがとうございました。